

4. 資料整理報告

ここには、甲府市在住の古屋俊助氏から大阪大学に寄贈していただいた『兵要地誌』類に付載された地図の目録を示している。地図が『兵要地誌』の主要構成要素であることを理解いただきたい。また最初に示した古屋氏の略歴では、特務機関における情報収集等の実態についても紹介している。

古屋俊助氏寄贈『兵要地誌』類所収の地図に関する目録

ここに掲載するのは、古屋俊助氏(山梨県甲府市在住)が大阪大学に寄贈して下さった『兵要地誌』およびそれに関連する資料に付載された地図の目録である。古屋氏は後述するように旧軍人で、第二次世界大戦直後にここで紹介する『兵要地誌』類を入手され、それまでの軍事的性格に配慮して長期間家族にも話さず秘匿されていた。日本経済新聞に掲載された、私たちの外邦図研究に関する記事(2004年1月31日、文化面[36頁]「日本軍の地図大量に保存：アジア太平洋地域研究活用へ期待」)をたまたまご覧になった古屋氏は、担当記者の松岡資明氏にこれらの資料につき連絡された。松岡氏よりこのことについて連絡をうけた小林は、電話で古屋氏にお願いして、この『兵要地誌』類の表紙の写真を送っていただいた。この上で2004年11月20日に、小林にくわえ、兵要地誌の研究に従事してきた源、大学院生の渡辺が甲府市の古屋氏宅におうかがいして資料を拝見し、古屋氏がこの資料を入手された経過をうかがった。やはり後述するように、古屋氏は第二次世界大戦終結まで、特務機関に勤務しておられ、これについても興味ぶかいお話をうかがうことができた。古屋氏は、すでに上記資料を学術研究に供するため、大阪大学に寄贈する意向を固めておられ、私たちはこれらの資料をお預かりすることとなった。そのご大阪大学



写真1 古屋俊助氏ご夫妻近況(2005年12月24日)

への寄贈手続きが終了してのち、2005年12月24日に再度小林が古屋氏宅にうかがい、大阪大学図書館長名の感謝状を古屋氏に差し上げることとなった(写真1)。

このような貴重な資料を寄贈して下さり、また貴重なお話を聞かせていただいた古屋氏ならびにご家族に感謝申し上げたい。またご寄贈から目録の刊行まで、このように時間が経過してしまったことにつきお許しをいただけたらと考えている。

この目録は、以上のような経緯で提供していただいた資料を学術的に活用するために作製したものである。作業には大阪大学大学院博士前期課程の折橋幸代さん(2006年3月修了)および同文学部学生の多田元信君(2006年3月卒業)があたった。ここに記して折橋さんと多田君に感謝したい。

以下、古屋氏の略歴、寄贈資料の特色について要点を述べ、本資料の解題としたい。なお古屋氏は、第二次世界大戦終結時には中国大陸山東省におられ、引き揚げにあたって特務機関勤務の経歴から中国側当局に逮捕されるおそれがあったため、身辺の記録等を一切処分された。このため、同氏の履歴の時期については、確認が困難な点もあることをあらかじめ付記しておきたい。

古屋俊助氏の略歴

古屋俊助氏は1915(大正4)年12月の生まれで、山梨で小学校を卒業した。進学の希望があったが、不景気でこれがかなわず、伊藤博文の娘婿の末松謙澄(1855-1920)子爵家の執事をしていた叔父をたより、政治家・実業家であった河合良成(1886-1970)の弟、鉄二氏(その妻は川崎財閥の川崎八右衛門の長女という)の書生となった。この家は麻布六本木にあった。のち神田にあった東京商業学校(現東京学園高等学校)に入学し、卒業後は川崎貯蓄銀行に就職して、渋谷支店に配属された。これは八チ公の像の真後ろにあったという。

1937(昭和12)年1月、21歳で甲府の歩兵第49連隊に入営した。同連隊は1936(昭和11)年の2.26事件の鎮圧に参加、同年5月に歩兵第3連隊(麻布)、歩兵第57連隊(佐倉)とともに第1師団に編成され、満州に派遣されていた。留守隊に入営した古屋氏は、1月末には宇品から大連経由で北安(現中国黒竜江省)にむかった。黒河(現中国黒竜江省)で3ヶ月の初年兵教育を受けた。その

ご日本本土にもどり、陸軍教導学校で第 11 期生として約半年間の下士官教育をうけた。はじめは豊橋の教導学校に 1 ヶ月間おり、のちに熊本の教導学校に移った。12 月に満州にもどったが、本隊はソ連国境の神武屯に移動していた。そこで陣地構築にあたり、徴集された現地人の作業員の監視をおこなった。

甲府では歩兵第 149 連隊を編成することになり(1937[昭和 12]年 8 月)、神武屯にきてから半年ほどたつて、その要員として甲府に帰った。1938(昭和 13)年には、陸軍戸山学校にはいり約半年間甲種学生として剣道と体操、さらに救急法などの訓練を受け、また甲府にもどった。

1941(昭和 16)年 11 月になり、長沙会戦(1941 年 9 ~ 10 月)で打撃を受けた原隊(歩兵第 49 連隊)の補充要員として派遣されたが、1 ヶ月足らずで北支那方面軍の特務機関に配属された。機関長は横田という中佐であった。着任後すぐに保安隊(王兆銘の南京政権のもとにあったと考えられる)に派遣されてしまったので、その組織については、よくわからないが、本部は天津にあった。保安隊は中国人により構成されており、その任務は八路軍のゲリラ活動対策であった。司令官は旅団長の除垂平という人であった。その指導という名目で、士官 1、下士官 1、兵 3 という構成の日本人軍人が通訳と現地人の協力員構成もあわせて、1000 人程度の部隊に派遣されており、その一員(古屋氏は少尉)であった。

保安隊での古屋氏らの任務は、軍事訓練をしながらの情報収集で、たとえば渡河訓練をさせて川の水深や渡河可能性をさぐり報告した。また集落へ行くときは、画板にはった紙に建物をえがき小さな地図として、井戸のありかや水質も記入した。作物や湿地帯、道路の交通可能性も調査して月報に報告した。湿地帯には夏場は蚊が多く、マラリアの調査もさせられた。今考えれば、作戦図のもとをつくるような仕事であった。1000 人も中国人のなかで、たった 5 名の日本人ということで心細く、はじめは軍刀や拳銃をもって就寝した。保安隊ではソ連を仮想敵国と考えており、その戦車を想定して火炎瓶を投げる訓練もおこなった。

1942(昭和 17)年末 ~ 1943(昭和 18)年初めになって、独立混成第 9 旅団に配属替えになって、山東省の棗荘に行った。中興炭坑という製鉄に使える石炭を採掘する炭坑の警備をしていた。第二次世界大戦終結まえに参

謀本部詰めの内命があったが、戦局のため赴任できなかった。終結後になって、特務機関時代の部下の中国人の李という人が来て、古屋氏の名前がすでに中国当局の逮捕予定者リストに記載されていると伝えたので、軍服を変え、服はふつうの兵のものを着用した。また北支那方面軍の折田参謀が来て、所持していた私物を焼却するようにいわれたので、そのとおりにした。

棗荘からの引き揚げにあたっては、炭坑関係の居留民 300 名、兵 300 名と徒歩で青島にむかった。途中中国軍に包囲されたときには、中国語のできる古屋氏が使者となって話し合い、移動を続けた。1946(昭和 21)年 5 月に佐世保に帰着した。もどってみると、1945(昭和 20)年 5 月 17 日付けで勲六等に叙されていた。

復員してから参謀本部の杉山元元帥(1880-1945、1945 年 9 月に自決)のところに行った田村治平という人から東中野に行けといわれ、ある屋敷の倉庫にあった『兵要地誌』を鞆に詰められるだけ詰めて持ち帰った。戦争中なら、こういうものを持ち出せば軍法会議にかけられたと思い、特務機関にいた頃に調査した地域の兵要地誌を選ぶ余裕はなかった。持ち帰った『兵要地誌』は、長い間秘匿していた。

古屋氏は 1950 年代以降、自由民主党の金丸信氏(1914-1996)の後援者になり、選挙運動に参加した。金丸氏を中心に、佐藤栄作氏(元首相、1901-1975)、天野久氏(山梨県知事、1892-1968、のちの山梨県知事、天野建氏の父)などとともに撮影した写真を保持している。またフィリピンのレイテ島・セブ島で多数の戦死者を出した歩兵第 49 連隊の遺骨収集事業にも関係していた。増田甲子七氏(1898-1985)が防衛庁長官に就任していたとき(1966-68[昭和 41-43 年])に遺骨収集の資金を得ることを思い立って、金丸氏と所持していた『兵要地誌』を防衛庁に持っていったことがあるが、軍縮時代でそのような資料を購入する予算は組めないということになり持ち帰った。そのご防衛庁より『兵要地誌』を戦史編纂のために借用したいという依頼があり、それに応じた。これ以後は人に見せてもよいと思うようになり、甲府の連隊長をしていた人にも見せたことがある。

またベトナム戦争の直前頃に、アメリカ大使館より『兵要地誌』を閲覧したいという内容の手紙が来たことがあったが、防衛庁に相談してこれには応じなかった。所蔵の『兵要地誌』の中にはベトナムに近いとこ

ろのものもあるから、このような依頼があったと思っている。

この『兵要地誌』は長い間秘密にしていたもので、特務機関員をしていたこともあり、復員してからも気にかかって夜眠れないこともあった。これを学術用に寄贈すれば、ようやく自分の戦後がおわるような気持ちである。

以上、古屋氏の略歴を紹介しながら、『兵要地誌』類の入手とその後の経過を述べた。古屋氏の軍歴は、所蔵されておられる『兵要地誌』の編集等には直接の関係をもたないが、特務機関員の職務内容はまさしく『兵要地誌』あるいは兵要地誌図(小林, 2003)のための情報収集であったといえよう。なおこの時期の中国北部の特務機関について、秦編(1991, 375 頁)は、つぎのように述べている。

支那事変勃発後は北支那方面軍に特務部が置かれた。(昭和)13~14年にかけて各省ごとに特務機関が置かれ、省名を付して、たとえば「河北省特務機関」と称し、さらにその下部に支部的な特務機関が置かれ、軍政、宣撫工作、情報収集等にあたった。

古屋氏のお話は、こうした特務機関の現場における活動がどのようにおこなわれたか示すものといえよう。

また古屋氏は、第二次世界大戦後になって時間が経過しても、軍事秘密になっていたものを密かに所持しているということに緊張を感じる旧軍人の思いを強調された。戦前の軍事秘密に関する規制を戦後になってもつよく意識し、当時の秘密事項について話すのを躊躇されるのは、外邦図に関与された方の場合にも共通する。今回提供していただいた資料は、当時そのように位置づけられていたことに私たちも留意すべきであろう。

古屋氏提供資料の検討

つぎに古屋氏に提供していただいた『兵要地誌』をはじめとする資料について、その性格を簡単に検討しておきたい。資料は全9点(写真2)で、このうち8点については書誌的データを目録に記している。あとの1点は地図を掲載しておらず、目録にないので、以下にこれを記しておきたい。



写真2 古屋氏寄贈資料

『漢口ヲ中心トスル中部支那氣象便覧』参謀本部
(18.8×12.7cm、35頁)

表紙の一部が破損している。表紙に「部外秘」と印刷し、その上に「軍機取扱」の朱印を押す。第1頁の凡例に「昭和十三年六月」と記す。

本資料は、刊行時期とタイトルからみて、日中戦争の開始(1937[昭和12]年)後、南京を占領されて漢口にうつった国民政府を攻撃する「漢口作戦」(1938[昭和13]年)に参加する部隊のために作製されたものと考えられる。

つぎにこれら9点の資料の位置づけにうつりたい。『兵要地誌』に関する網羅的な目録はまだ作製されていないが、これまでの研究では源(2000)がかなりくわしい書誌を付したものを示している。また元大本営参謀であった渡辺正氏の所蔵資料の「兵要地理調査二関スル回答資料」のなかの「兵要地誌調製書類目録ノ一例」(渡辺正氏所蔵資料集編集委員会, 2005, 81-83 頁)にも目録がみられる(ただしタイトルのみ)。これらには、ここで紹介する多くの資料が記載されている。9点の資料のうち、源(2000)に記載されていないのは、『廣西省兵要地誌概説』、『北支軍需輕工業原材料現地調辨二関スル調査報告書』、『漢口ヲ中心トスル中部支那氣象便覧』の3点のみである。また「兵要地誌調製書類目録ノ一例」には、『廣西省兵要地誌概説』もみられ、記載されていないのは、『兵要地誌』としてはやや特殊な2点のみとなる。

ところで、古屋氏寄贈の資料の多くには「参本機秘密室 号」と記した印が押されており、「」の部分には番号が手書きで記入されている。この「参本機秘密室」はもとの収蔵機関の可能性もあるので、元大本営参謀として、第二次大戦末期に兵要地誌班を担当

されておられた上記渡辺正氏(金窪, 2005)におたずねしたが、「参本」は参謀本部の略と考えられるが「機秘密室」についてはご存知ないとのことであった。

さて、上記9点はいずれも中国を対象としているが、刊行時期からみると1937(昭和12)年～1941(昭和16)年のものと、1943(昭和18)年以降のものに分けて考えることができる。前者の『兵要地誌』はそれほど厚くはなく、一般的な地誌という性格がうかがわれるが、後者は厚く第2次世界大戦後半の軍事的緊張を反映している。

たとえば『雲南省兵要地誌概要』(昭和15年)と同じタイトルの『雲南省兵要地誌概要』(昭和18年)と比較すると、前者は厚さが1.5センチにすぎないのに後者になると9センチに達し、目録にみられるように地図の数も飛躍的に増加している。これは後者の第一章、用兵的觀察の第一節、要旨にみられる、「本省ハ支那事变前ニ於テハ未開ノ蛮域ニ属セシモ事变ノ進展ニ伴ヒ援蔣路ノ通路トシテ其ノ価値ヲ急速ニ増大セリ」(1頁)という事情を反映したものとみてよい。日本軍によって東シナ海および南シナ海沿岸からの物資補給ルートを断たれた国民政府は、ビルマ・雲南省を経由するルートに大きく依存するようになる。日本軍はビルマ側より雲南省に侵入して、1942(昭和17)年5月にはこの一端である怒江の渡河地点を占拠して陸上交通を遮断する(小林・渡辺・鳴海, 2005)が、空路による連絡はつづき、雲南省は戦略的に重要な地域になっていたのである。

他の地域の兵要地誌についても同様で、『江西省兵要地誌概説』(昭和18年12月)の同様の同じ項目では、アメリカの航空基地としての江西省の役割が強調されている。1943(昭和18)年11月には、江西省の飛行場を基地とする米軍機により台湾空襲がおこなわれた。1944(昭和19)年6月には、さらに日本本土への空襲が開始された(白井, 1967, 162-165頁)。

このように軍事情勢が反映された、1943(昭和18)年以降に刊行された『兵要地誌』には、いずれも冒頭の「緒言」で依拠したおもな資料をあげている。もっとも刊行時期の遅い『廣西省兵要地誌概説』(昭和19年2月)の場合、南方軍總司令部調製廣西省兵要地誌概説(昭和18年11月)、北部仏印警備司令部調製廣西省兵要地誌概説(昭和17年9月)、同西南支那兵要地誌資

料ノ一(廣西省兵要衛生資料)(昭和18年7月)、支那派遣軍總司令部及南支那派遣軍司令部調製五十万分一南支方面兵要地誌図、其ノ他現地軍提出諸資料並ニ諸文献等、と資料を示し、他にも多くの『兵要地誌』が現地部隊により作製されていたことが判明する。

こうした『兵要地誌』に含まれている地図についても根拠資料について言及するものがあり、たとえば『雲南省兵要地誌概要』(昭和18年)の附図第十八「昆明市重要施設並ニ外国權益図」では、「本図ハ昭和十七年十二月迄ニ蒐集セル資料ヲ綜合セルモノ」と記している。ここでいう資料がどのように収集されたかにはふれていないが、最新の情報を利用しようという姿勢がうかがえる。

以上のようにみてくると、地理的情報に関する日本軍の活動の一端をうかがうことができるが、これにさらにアプローチするには、現地部隊の情報活動に関する検討がさらに要請されているといえよう。古屋氏からうかがった特務機関での活動は、その一端を示すものとして貴重であり、同氏にはこの点でも感謝申し上げたい。

なお、これまで兵要地誌につき多くの資料を提供して下さり、電話での問い合わせにも対応して下さい渡辺正氏に、ここに記してお礼申し上げます。

(文責:小林 茂・源 昌久・渡辺理絵)

文 献

白井勝美(1967)『日中戦争』中公新書。

金窪敏知(2005)「あとがき」渡辺正氏所蔵資料集編集委員会編『終戦前後の参謀本部と陸地測量部』大阪大学文学研究科人文地理学教室, 122-124頁。

小林 茂(2003)「<兵要地誌図>(大阪大学文学研究科人文地理学教室所蔵)目録」『外邦研究ニュースレター』1号, 43-46頁。

小林 茂・渡辺理絵・鳴海邦匡(2005)「戦場における日本軍の地図作製」中村和郎編『地図からの発想』古今書院, 32-33頁。

秦 郁彦編(1991)『日本陸海軍総合事典』東京大学出版会。

源 昌久(2000)「わが国の兵要地誌に関する一研究」『空間・社会・地理思想』5号, 37-61頁

渡辺正氏所蔵資料集編集委員会(2005)『終戦前後の参謀本部と陸地測量部』大阪大学文学研究科人文地理学教室。

古屋俊助氏『兵要地誌』類所収地図目録（刊行時期順）

表題	平津地方(河北省北部)兵要地誌概説				
書誌	參謀本部、昭和12年8月20日調製、備考:「秘第95號」(印字)				
章構成	第一章 用兵の觀察、第二章 地形、第三章 運輸、第四章 通信、第五章 氣象、第六章 宿營・給養、第七章 衛生				
図表	附圖1枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨコ)cm	縮尺	色	凡例
附圖	北支有線通信網要圖	37.9×50.0		多色刷	公衆電線、軍用・省用電線(主トシテ電話)、公衆電信、鐵道電信

表題	雲南省兵要地誌概説				
書誌	大本營陸軍部、昭和15年7月20日調製、備考:「軍事極秘第242號」(印字)、「參本機秘密室626号」(印)				
章構成	第一章 用兵の觀察、第二章 地勢/概要、第三章 河川、湖沼、濕地、第四章 主要自動車道、第五章 鐵道、第六章 水運、第七章 通信、第八章 航空、第九章 氣象、衛生、第十章 主要都市、第十一章 土著種族、第十二章 宿營・給養、第十三章 度量衡				
図表	附圖11枚、附表6枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨコ)cm	縮尺	色	凡例
附圖第1	地勢概見圖	53.3×69.0	250万分1	多色刷	
附圖第2	主要自動車道路網	45.4×48.0	250万分1	多色刷	自動車道、工事中及未完成自動車道、既成鐵道、路盤完成鐵道、計畫鐵道
附圖第3	滇越鐵道諸元圖表	73.0×50.0	100万分1ほか	単色刷、多色刷	[備考:(一)滇越鐵道(100万分1)、(二)滇越鐵道施設一覽表、(三)海防-昆明間線路縱斷面圖(200万分1)]
附圖第4	通信網一覽圖	29.0×34.2		単色刷	直列式モールス機、交換器、無線電信、架空電線
附圖第5	飛行場候補地並民間航空路一覽圖	53.5×68.0	250万分1	多色刷	中國航空公司(米支合弁)、歐亞航空公司(獨支合弁)、英國系會社・運行線、飛行場所在地、飛行場候補地、標高
附圖第6	獸疫濃感染地帯概要圖	32.1×44.9		多色刷	
附圖第7	昆明市街敵重要施設並外國權益要圖	74.9×89.8	5千分1	多色刷	街港、道路、小徑、鐵道、城牆、圍牆、橋梁、地界、土堤、山脈、岩石、河流水塘、環城公路、田、菜園、墓地、草地、桑園、針葉樹、潤葉樹、銅像、塔牌坊
附圖第8	人口密度要圖	59.5×52.3		多色刷	縣別人口密度區分表(省略)
附圖第9	滇越鐵道沿線各縣米及雜穀消費概況圖	55.5×47.8		多色刷	
附圖第10	滇越鐵道沿線各縣米及雜穀其他流動要圖	52.2×43.7		多色刷	
附圖第11	滇越鐵道沿線各縣畜産概況圖	54.3×48.5		多色刷	

表題	北支軍需輕工業原材料現地調辨二關スル調査報告書 第二部 羊毛、毛皮、皮革 別冊其ノ一附圖竝ニ統計表(羊毛)				
書誌	昭和16年5月20日、參謀本部、備考:參本機秘密室第 号				
章構成	附圖ノ部、統計表ノ部				
図表	挿圖4枚、挿表5枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨコ)cm	縮尺	色	凡例
附圖其ノ1	昭和十三年度羊毛蒐集圖	53.9×71.5	200万分1	多色刷	蒐集經路、還送經路、蒐貨地又ハ支廠出張所及派出所々在地、國界、省界・聯盟界、縣界、道界、盟界、旗界、特別市、首府、省公署・自治政府、道公署、縣公署、盟公署、旗公署、鐵道及站名、長城、河川及湖泊、運河
附圖其ノ2	昭和十四年度羊毛蒐集圖	53.3×73.0	200万分1	多色刷	國界、省界・聯盟界、縣界、道界、盟界、旗界、特別市、首府、省公署・自治政府、道公署、縣公署、盟公署、旗公署、鐵道及站名、長城、河川及湖泊、運河
附圖其ノ3	昭和十三年度線別羊毛蒐集圖	53.5×67.7	200万分1	多色刷	國界、省界・聯盟界、縣界、道界、盟界、旗界、特別市、首府、省公署・自治政府、道公署、縣公署、盟公署、旗公署、鐵道及站名、長城、河川及湖泊、運河
附圖其ノ4	昭和十四年度線別羊毛蒐集圖	53.5×68.1	200万分1	多色刷	國界、省界・聯盟界、縣界、道界、盟界、旗界、特別市、首府、省公署・自治政府、道公署、縣公署、盟公署、旗公署、鐵道及站名、長城、河川及湖泊、運河

表題	雲南省兵要地誌概説				
書誌	參謀本部、昭和18年4月15日調製、備考:「軍事秘密」(印字)、「參本機秘密室41号」(印)				
章構成	第一章 用兵の觀察、第二章 地形、第三章 交通、通信、第四章 航空、第五章 氣象、第六章 衛生、第七章 宿營及給養				
図表	挿圖8枚、附圖25枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨコ)cm	縮尺	色	凡例
挿圖第1	雲南省概見圖	62.1×65.7	250万分1	多色刷	主要道路、同右幹線、其他ノ主要道路、破壊セル道路、既設鐵道、未設鐵道、航空路、國境、省境、主要河川、同右舟運アル區域、主要飛行場、銅産地、鉛産地
挿圖第2	「タンチユイ」-開化ノ「マンメイ」-開化間道路縱斷面圖	27.7×36.3	縦2万分1、横50万	単色刷	
挿圖第3	開化-江那-得安-阿迷ノ開化-馬塘-蒙自間道路縱斷面圖	28.6×40.3	縦2万分1、横50万	単色刷	

挿図第4	蒙自-新街間道路縱断面圖	20.9×36.6	縦2万分1、横50万	単色刷	
挿図第5	蒙自-昆明間東側/西側道路縱断面圖	26.4×109.0	縦2万分1、横50万	単色刷	
挿図第6	川滇東公路(瀘縣-曲靖間)道路縱断面圖	27.3×62.2	水平100万分1、垂直1万分1	単色刷	
挿図第7	川滇中公路(昆明-東川-叙州間)道路縱断面圖	20.9×59.5	水平100万分1、垂直1万分1	単色刷	
挿図第8	川滇西公路(昆明-西昌間)道路縱断面圖	20.9×47.5	水平100万分1、垂直1万分1	単色刷	
附圖第1	雲南省地勢概況要圖	53.5×72.0	250万分1	多色刷	省境、山脈、河川、主要自動車道、其/他/主要道路、鐵道、同右破壊セル部分、昆明/1980:昆明/標高1980米
附圖第2	雲南省作戰概況要圖	73.5×89.8	150万分1	多色刷	自動車道、同右舗装ヲ有スルモノ、輜重車輛道、經路不明若クハ要偵察道、省境、主要河川
附圖第3	雲南省主要交通網圖	59.0×73.0	250万分1	多色刷	自動車道、同右經路要偵察道、輜重車輛道、馱馬道、舟艇航行河川、同右計畫線、既設鐵道、未設鐵道、省界
附圖第4	雲南省自動車道一覽圖	59.0×73.0	250万分1	多色刷	自動車道、全右經路不詳及要偵察區間、建設中ナリヤ完成セルヤ不明ナル公路、破壊區間、主要經過地点、舗装ヲ有シ概ネ四季ヲ通ジテ使用可能ナルモノ
附圖第5	雲南省主要隊商路一覽圖	69.0×52.5	200万分1	多色刷	省境、自動車道、隊商路(輜重車道)、同右(馱馬道)
附圖第6	滇緬公路要圖	75.9×53.0		多色刷	著陸場、主要飛行場、(大型機/使用ヲ許スモノ)、自動車道(公路)、隊商路、鐵道通車區間、全右未完成線、國境
附圖第7	滇黔公路要圖	53.5×75.4	250万分1	多色刷	標高(省略)、距離(省略)、鐵道通車區間、自動車道、大型機/使用ヲ許ス飛行場、着陸場
附圖第8	滇緬鐵道一覽圖	53.4×65.1	100万分1	多色刷	通車區間、鐵道豫定線、自動車道、一般道路
附圖第9	叙昆鐵道一覽圖	46.4×55.4	100万分1	多色刷	通車區間、公路、馱馬道、鐵道予定線
附圖第10	滇越鐵道一覽圖	75.5×53.3	100万分1	多色刷	配屬機關車、給水設備、轉車台
附圖第11	雲南省地方主要河川調査圖	51.0×75.0	250万分1	多色刷	汽船可航區域、民船可航區域、水運開發計畫、省境
附圖第12	雲南省通信網一覽圖	41.9×44.4		多色刷	直列式「モールス」機、交換機、無線電信、架空電線、自動車道、全右破壊區間、一般道路
附圖第13	雲南省航空路線及飛行場概見圖	59.0×70.8	250万分1	多色刷	飛行場所在地、空軍電臺、修理工場、貯油所、彈藥庫、製作所、格納庫、氣象臺、大型機/發着可能ナル飛行場、一般著陸場、E.S.N:飛行場所在市街トノ關係位置ヲ示ス(省略)、8×12:飛行場幅員ヲ示ス、數字單位八百米ナリ、航空路線、全右大東戦後中絶セラレタルモノ
附圖第14	雲南省主要疾病濃厚地帯一覽圖	59.0×73.0	250万分1	多色刷	ペスト、痘瘡、回歸熱、マラリア、炭疽、鼻疽、甲状腺腫、但シ癩・赤痢・腸「チブス」ハ各地ニ發生
附圖第15	雲南省東南部獸疫濃厚地帯概見圖	33.9×44.6		多色刷	
附圖第16	雲南省各縣別人口及戶數一覽圖	59.0×73.2	250万分1	多色刷	戶數(省略)、人口(省略)
附圖第17	雲南省主要都市一覽圖	59.0×72.9	250万分1	多色刷	鐵道、主要自動車道、同右計畫線、主要都市地点
附圖第18	昆明市重要施設並ニ外國權益圖	75.5×88.8	5千分1	多色刷	街港、道路、小徑、鐵道、城牆、圍牆、橋梁、地界、土堤、山脈、岩石、河流水塘、環狀公路、田、菜園、墓地、草地、桑園、針葉樹、潤葉樹、銅像、塘牌坊、外國權益又ハ教會施設、要注意施設、支那重要施設、推定位置
附圖第19	雲南省給水状態概見圖	59.0×72.8	250万分1	多色刷	井戸水含塩量多量、給水容易ナル地方
附圖第20	滇越鐵道沿線地區各縣農產概見圖	58.8×73.2	250万分1	多色刷	人糧、雜穀(省略)
附圖第21	滇越鐵道沿線地區各縣畜產概見圖	58.9×73.4	250万分1	多色刷	
附圖第22	滇緬公路沿道地區各縣農產概見圖	59.0×72.7	250万分1	多色刷	人糧、雜穀(省略)
附圖第23	滇緬公路沿道地區各縣畜產概見圖	58.7×73.0	250万分1	多色刷	
附圖第24	昆明進攻作戰間ニ於ケル給養參考圖	70.6×53.3	250万分1	多色刷	
附圖第25	雲南省農產及鑛產概見圖	58.9×72.8	250万分1	多色刷	農産物10萬噸以上、同5萬噸以上、同5萬噸以下、鐵/埋藏ヲ示ス、鐵/採掘サレアルヲ示ス、石炭/埋藏ヲ示ス、石炭/採掘サレアルヲ示ス

表題	西康省事情				
書誌	參謀本部、昭和18年6月8日調製、備考:「秘」(印字)、「軍事秘密」(印)、「參本機密室90号のい」(印)				
章構成	第一章 總説、第二章 地形及地質、第三章 交通及通信、第四章 航空、第五章 氣象、第六章 衛生、第七章 主要都市、第八章 資源及經濟、第九章 軍事及政治、第十章 教育及宗教、第十一章 民情及風俗				
図表	挿表4枚、附表5枚、附圖8枚				
種・番号	タイトル	法量(㌧×㌧)]cm	縮尺	色	凡例

附圖第1	西康省概見圖	65.6 × 90.7	250万分1	多色刷	飛行場、航空路、全右將來/豫想航空路線、自動車道、商隊道、(自動車道計畫線)、河川水運、既設鐵道、省境
附圖第2	西康省地勢概見圖	78.8 × 64.4	300万分1	多色刷	道路(省略)、標高(省略)、寫真番号(省略)
附圖第3	西康省交通網概見圖	65.7 × 103.2	250万分1	多色刷	自動車道、野砲道、輜重車輛道、馱馬道、自動車道計畫線、河川水運、全右計畫線、既設鐵道、主要地点間/路上距離、寫真對象番号ヲ示ス
附圖第4	西康省通信網圖	48.8 × 65.6		多色刷	有線電話、有線電信、既設線ナルモ現在破壊サエワル有線電話、無線電話、無線電信
附圖第5	西康省航空路線並二飛行場一覽圖	61.7 × 85.5	250万分1	多色刷	中國航空公司、所屬不明(米國系)、將來/豫想航空路線、重要飛行機/發著可能ナル飛行場、5 × 8飛行場:東西500米ヲ示ス、空軍氣象放送地点、格納庫所在地、燃料庫所在地、彈藥庫所在地、製作工廠所在地
附圖第6	西康省主要都市概見圖	70.2 × 106.9		多色刷	城壁ヲ有スル都市、飛行場所在地、重要都市、宗教上/聖地、戸數(人口)、省境、自動車道、野砲道、輜重車輛道、馱馬道
附圖第7	西康省農産資源概見圖	48.2 × 55.5	250万分1	多色刷	米、小麥及青稞、大麥、燕麥、玉蜀黍、高粱、甘薯、白菜青菜、馬鈴薯、豌豆、粟
附圖第8	西康省鑛産資源概見圖	48.8 × 57.0	250万分1	多色刷	金、鐵、銅、石灰、鉛、鎳、硫、塩/埋藏地ヲ示ス

表題	甘肅省事情				
書誌	參謀本部、昭和18年11月4日、備考:「秘」(印字)、「軍事秘密」(印)、「參本機秘密室九六号」(印)				
章構成	第一章 概説、第二章 地形及地質、第三章 交通、第四章 航空及通信、第五章 氣象、第六章 衛生、第七章 資源及經濟、第八章 主要都市、第九章 民族、宗教及教育、第十章 行政及司法、附表、附圖				
図表	挿圖2枚、挿表5枚、附圖27枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨリ)cm	縮尺	色	凡例
挿圖第1	甘肅省内萬里長城概要圖	20.5 × 30.5	300万分1	多色刷	
挿圖第2	甘肅省地震源分布圖	62.4 × 81.4	200万分1	多色刷	激震區域、半破壞の區域
附圖第1	甘肅省概見圖	65.5 × 75.7	200万分1	多色刷	未完成鐵道、航空路、長城
附圖第2	甘肅省地勢概見圖	66.2 × 82.3	200万分1	多色刷	斷面線
附圖第3	甘肅省山脈及河川狀況圖	67.0 × 88.6	200万分1	多色刷	河幅(水幅)/水深(流連)河底/狀況
附圖第4	上流黄河(蘭州-寧夏間)狀況	47.1 × 75.8	50万分1	多色刷	
附圖第5	甘肅省黄土分布圖	69.1 × 82.5	200万分1	多色刷	黄土層厚(省略)
附圖第6	甘肅省交通網一覽圖	68.0 × 77.5	200万分1	多色刷	自動車道、既成道路ニ非ルモ自動車ヲ通ジ得ルモノ、野砲道、輜重車道、馱馬道
附圖第7	甘肅省自動車公路一覽圖	70.0 × 74.8	200万分1	多色刷	自動車道、既成道ニ非ルモ自動車ヲ通ズルモノ、既成鐵道、未
附圖第7其ノ2	一般定期自動車/運營並二附屬施設狀況要圖	68.4 × 78.2	200万分1	多色刷	定期運行路線、不定期並二計畫路線、宿泊站車站、晝食站、總食站、車場、修車廠、油庫、機庫、材料庫、救濟站、檢査站、木炭廠、養路段、育苗場、電臺(以下省略)
附圖第8	甘肅省内西北公路狀況圖	33.7 × 173.7	100万分1	多色刷	西蘭及蘭猩公路、其ノ他公路、戈壁、長城
附圖第9	甘肅省飛行場並二諸施設狀況要圖	67.7 × 86.1	200万分1	多色刷	定期航空路、不定期航空路、航空公司辦事處所在地、離着航地、飛行場所在地、航空用無電台(以下省略)
附圖第10	蘭州ヲ中心トスル防空施設要圖	68.6 × 78.6	200万分1	多色刷	防空司令部、中心點、監視隊、監視哨、中心點間連絡通信線、同右想定線、中心點ト各監視隊間連絡通信線、同右想定線
附圖第11其ノ1	甘肅省有線通信網圖	66.5 × 80.0	200万分1	多色刷	有線電信、同推定線、有線電話、同推定線、長途電話取扱局、同右設置豫定地、電信電報取扱局、同右設置豫定地、電信用電源供給地、同設置豫定地、電話用電源供給所、同設置豫定地、發電廠
附圖第11其ノ2	甘肅省無線通信網圖	67.5 × 79.8	200万分1	多色刷	無線電信、無線電話、無線電話取扱局並二無線電信局、無線電信局、交通部無電臺、軍政部無電臺、放送用無電臺、呼出符號、數字八空中線電力(W)
附圖第11其ノ3	甘肅省郵政圖	68.9 × 80.0	200万分1	多色刷	郵政管理局、甘寧電區管理局、二等郵便局、三等郵便局、每日晝夜行遞送隔日晝夜遞送、每日晝間遞送、隔日晝間遞送、每日或八三日以上/遞送
附圖第12	甘肅省給水狀況要圖	68.0 × 82.5	200万分1	多色刷	井・河 良1000 / 5.6(1.3):水源數 水質良給水能力(人員) / 水位(水深)、良:水質良好、濾適:濾過飲用適、沸適:煮沸飲用適、不良:水質不良(以下省略)
附圖第13	甘肅省農、林産資源一覽圖	66.6 × 76.5	200万分1	多色刷	米及小麥(省略)、主要森林區域
附圖第14	甘肅省畜産資源一覽圖	67.4 × 80.5	200万分1	多色刷	羊毛、駱駝毛、羊皮、牛皮、數字八年産量ヲ示ス / 單位八獸毛氈、獸皮千枚
附圖第15其ノ1	甘肅省鑛産資源一覽圖	65.0 × 80.3	200万分1	多色刷	石油、砂金、銀、石灰、滿掩、塩、鐵
附圖第15其ノ2	甘肅省石油資源分布一覽圖	66.0 × 79.5	200万分1	多色刷	
附圖第16	甘肅省向上及事業分布並二工業製品流動圖	66.0 × 80.0	200万分1	多色刷	工場及事業場、移入品、仕出仕向地ヲ示ス
附圖第17	甘肅省主要金融機關分布圖	66.0 × 79.9	200万分1	多色刷	省立銀行(省略)、國家系銀行(省略)、省外銀行(省略)、共產黨金融圈
附圖第18其ノ1	甘肅省主要都市概見圖	71.5 × 92.2	200万分1	多色刷	
附圖第18其ノ2	甘肅省主要都市市街圖	71.0 × 102.5		多色刷	

附圖第19	甘肅省人口密度一覽圖	65.5×79.4	200万分1	多色刷	人口密度(省略)
附圖第20其/1	甘肅省民族及宗教分布概況圖	65.5×80.5	200万分1	多色刷	東干族(漢回)、ウイグル族(纏回)、ハザック族、藏族、蒙古族、回教、喇嘛教
附圖第20其/2	甘肅省各縣民族比較圖	67.5×85.0	200万分1	多色刷	漢族、回族、藏族、蒙古族
附圖第21	甘肅省行政區劃圖	64.2×78.8	200万分1	多色刷	區域、縣界、省政府所在地、行政督察專員公署所在地、縣政府所在地、設置局所在地
表題	江西省兵要地誌概説				
書誌	大本營陸軍部、昭和18年12月8日調製、備考:「軍事秘密」(印字)、「參本機秘密室34号のあ」(印)				
章構成	第一章 用兵の觀察、第二章 地形及地質、第三章 氣象、第四章 航空、第五章 交通、第六章 通信、第七章 衛生、第八章 宿營及給養、第九章 住民地及住民				
図表	挿圖9枚、附圖17枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨコ)cm	縮尺	色	凡例
第1圖	江西省概見圖	53.5×57.0	250万分1	多色刷	省境、主要自動車道、鐵道、航空路上/距離、主要飛行場、河川、重要鑛産地區、破壊區間、標高50米以下/平野地帯、標高50-200米/丘陵地帯、標高200米以上の山地帯
第2圖	江西省各縣別地方運搬材料所在數調査圖	63.7×56.6		多色刷	
第3圖	南潯鐵道線路圖	49.6×31.5		多色刷	
第4圖	鄱陽湖ニ於ケル標高水深及主要地点水位調査圖	45.8×50.3		多色刷	
第5圖	九江ヲ中心トセル郵便路線圖	47.3×58.2		多色刷	敵地、我が軍占據地域、利用多キ路線、利用比較的少ナキ路線
第6圖	江西省人口戸數面積並ニ人口密度調査圖	62.0×56.7		多色刷	藍色 我が軍占據地域、朱色 敵側地域、人口密度(省略)
第7圖	江西省各縣別主要農産概見圖	65.5×59.7	150万分1	多色刷	人糧ノ爲糧(官略)、王安河川、官堤、縣堤、人糧牛玉產量(官略)
第8圖	江西省一般家屋構造概要圖(其/1・九江附近)	38.8×29.5		単色刷	
第9圖	江西省一般家屋構造概要圖(其/2・信江(上饒江)流域)	20.4×22.0		単色刷	
附圖第1其/1	江西省地勢概見圖	75.6×72.3	100万分1	多色刷	山岳地帯(省略)、丘陵地帯(省略)、平野地帯(省略)、低濕地帯(省略)
附圖第1其/2	江西省一般地形關係寫真集	73.5×54.1			
附圖第2	江西省主要作戰概見圖	70.3×66.5	150万分1	多色刷	省境、占據地域、主要水路、自動車道(幹線)、自動車道(支線)、野砲道、輜重車道、駄馬道、破壊兩地間/距離、大型機使用可能飛行場、中(小)型機使用可能飛行場
附圖第3其/1	江西省河川及湖沼概況一覽圖	75.3×94.9	100万分1	多色刷	
附圖第3其/2	江西省河川關係寫真集	72.5×103.6			
附圖第4	江西省森林分布圖	64.4×65.0	150万分1	多色刷	森林地帯、森林ノ爲路外ノ行動困難ナル地域
附圖第5	江西省飛行場一覽圖	76×78	100万分1	多色刷	各種機利用可能飛行場、中型機使用可能飛行場、小型機使用可能飛行場、破壊セララル飛行場及鐵道、臨時著陸場、格納庫、油庫、彈藥庫、飛行機修理所、器材庫、我が軍占據地域ノ前縁
附圖第6	江西省陸上交通網一覽圖	70.7×73.4	150万分1	多色刷	鐵道、自動車道、野砲道、輜重車道、駄馬道
附圖第7其/1-12	南潯鐵道各驛配線圖集	19.6×67.5		単色刷	本線及側線、側線實長(有効長)
附圖第8	江西省水運調査圖	64.4×66.6	150万分1	多色刷	
附圖第9	江西省通信網一覽圖	64.8×57.9	150万分1	多色刷	主要連絡地点、通信連絡幹線、通信線、無線電信台
附圖第10	江西省主要疾病分布概見圖	64.4×66.7	150万分1	多色刷	腸「チフス」、赤痢、バラチフス、痘瘡、猩紅熱、流行性腦髄膜炎、チフテリア、コレラ、癩病、日本住吸血蟲病、マラリア
附圖第11	江西省主要作戰路沿道給養力概見圖	70.5×72.0	150万分1	多色刷	人糧、馬糧、進攻所要日數、進攻作戰間ニ於ケル人糧ノ收集量、沿道各縣ノ人糧年生産量、沿道各縣ノ馬糧粘性産量、進攻作戰間ニ於ケル馬糧ノ收集量、省境、我が軍占據地域
附圖第12	江西省主要鑛産地一覽圖	64.6×68.5	150万分10	多色刷	重用鑛山、タングステン、ピスマス、マンガン、モリブデン、アンチモン
附圖第13其/1	江西省主要都市概見圖	76.0×89.1	100万分1	多色刷	重要飛行場、重要都市、市街圖對照番號、附圖第13其/3ノ市街寫真對照番號
附圖第13其/2	九江市市街圖	53.3×73.3	1万分1	多色刷	
附圖第13其/3	江西省主要都市寫真集	75.8×53.8			

表題	廣西省兵要地誌概説				
書誌	大本營陸軍部、昭和19年2月1日調製、備考:「軍事秘密」(印字)、「參本機秘密室376号」(印)				

章構成	第一章 用兵の觀察、第二章 地形及地質、第三章 氣象、第四章 交通、第五章 航空及通信、第六章 衛生、第七章 宿營及給養、第八章 住民地及住民				
図表	挿圖2枚、附圖25枚				
種・番号	タイトル	法量(タテ×ヨコ)cm	縮尺	色	凡例
第1圖	廣西省賓陽會戰經過概要圖	42.8×47.7	約23万分1	多色刷	攻撃準備時期(省略)、赤ローマ数字八敵師團番号ヲ示ス
第2圖	南寧攻略戰經過概要圖	43.6×27.2	50万分1	多色刷	
附圖第1	廣西省地勢概見圖	62.1×87.6	100万分1	多色刷	自動車道・輜重車道・馱馬道(省略)、平地、河川、山脈
附圖第2	廣西省主要作戰路概見圖	76.9×107.8	100万分1	多色刷	自動車道、輜重車道、馱馬道、作戰距離、既成鐵道、未成鐵道
附圖第3	廣西省河川概況圖(欠)				
附圖第4其1	廣西省主要道路網概見圖	62.0×87.7	100万分1	多色刷	自動車道、輜重車道、馱馬道、水路
附圖第4其2	廣西省、佛印接壤地帶道路網一覽圖	70.0×76.9	50万分1	多色刷	自動車道、全右(乾期/ミ)、輜重車道、馱馬道、佛印ヨリ廣西省へノ進出拠点、國境、省境
附圖第5其1	廣西省鐵道概見圖	62.1×87.2	100万分1	多色刷	運行中/鐵道(軌間、1.435米)、工事計畫線、輕便鐵道、機關庫、工場、給炭所、給水所
附圖第5其2	湘桂鐵道施設要圖	77.9×106.4	50万分1	多色刷	鐵道、輕便鐵道、驛、機關庫、鐵道工場、給水所、鑛山
附圖第6其1	廣西省飛行場(附重要施設)一覽圖	76.0×107.7	100万分1	多色刷	飛行場(省略)、附屬施設及重要施設(省略)、主要補給路(省略)
附圖第6其2	桂林飛行場要圖	39.0×36.0		多色刷	[備考:桂林飛行場要圖(一般圖)10万分1、桂林南飛行場狀況要圖(昭18・8・21寫眞搜索)4万分1、桂林西飛行場狀況要圖(昭18・8・21寫眞搜索)3万分1]
附圖第7	廣西省通信網圖	45.6×56.4	150万分1	多色刷	有線電話網、有線電信網、交通部無電台、軍用無電台、有線電信局、電話局、空軍無電台
附圖第8	廣西省主要疾病分布概見圖	60.9×85.9	100万分1	多色刷	コレラ、マラリア、ペスト、猩紅熱、流行性腦脊髓膜炎、發疹「チフス」、肝臟「チストマ」、デング熱、甲状腺腫、炭疽、鼻疽、牛疫
附圖第9	廣西省各縣別戶數、人口竝ニ人口密度一覽圖	62.2×86.9	100万分1	多色刷	縣名、1方籽ニツキ100人以上、1方籽ニツキ99人以下50人迄、1方籽ニツキ49人以下、人口/戶數(人口密度)
附圖第10	廣西省主要鑛産概見圖	61.6×86.6	100万分1	多色刷	石炭、亞鉛、硫黃、タングステン、アンチモニー、ピスマス、モリブデン、マンガ
附圖第11其1	廣西省主要住民地概見圖	60.0×86.5	100万分1	多色刷	主要住民地、主要道路、破壊道路、主要水路、5煉:煉瓦製城壁高サ5米、15,900/3,500:人口/戶數、:市街圖集其1參照、イ:主要都市寫眞一覽イ參照
附圖第11其2其1/1	廣西省市街圖集 梧州市街圖	27.4×20.4	4千分3	単色刷	
附圖第11其2其1/2	廣西省市街圖集 梧州市附近要圖	23.6×20.5	100万分71	単色刷	
附圖第11其2其2	廣西省市街圖集 全縣(廣西省)	25.5×36.9	2万分1	単色刷	
附圖第11其2其3	廣西省市街圖集 桂林(廣西省)	52.5×28.6	2万分1	単色刷	
附圖第11其2其4	廣西省市街圖集 柳州(柳江縣城)(廣西省)	51.4×26.0	2万分1	単色刷	
附圖第11其2其5	廣西省市街圖集 武鳴市街圖 英國權益(在武鳴バイブルチャーチマン、ミツシヨン、リサヤテ敷地)	19.5×18.8		単色刷	
附圖第11其2其6	廣西省市街圖集 南寧市街重要施設要圖	40.3×27.1	約1万分1	単色刷	
附圖第11其2其7	廣西省市街圖集 龍州市街要圖	34.4×25.4	100万分71	単色刷	
附圖第11其2其8	廣西省市街圖集 憑祥市街圖	35.3×24.4		単色刷	
附圖第11其2其9	廣西省市街圖集 靖西市街圖	19.7×17.0		単色刷	
附圖第11其3	廣西省主要都市寫眞一覽圖	62.1×86.6			